



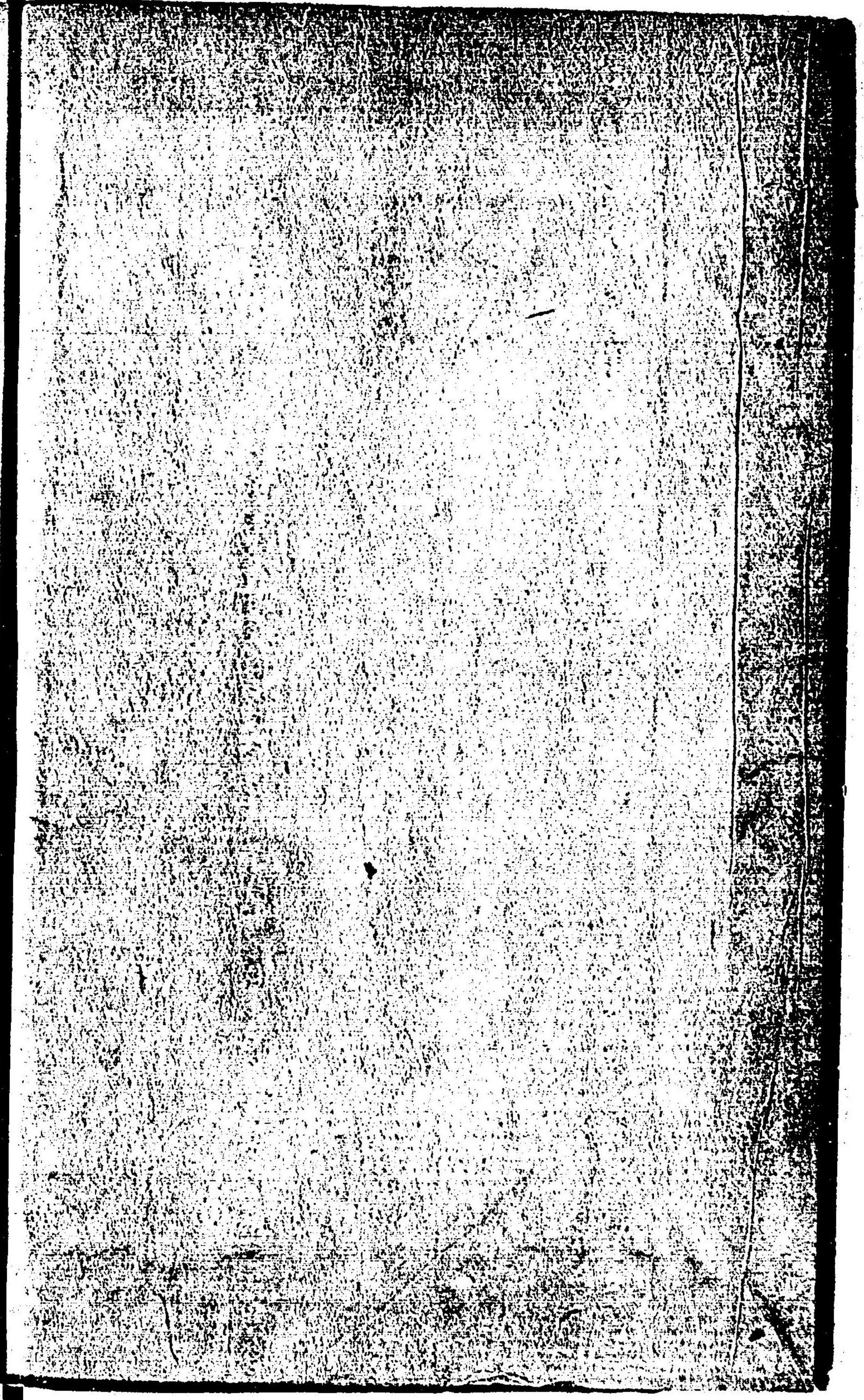
みちのくに
繪本通俗三國志五篇卷之七

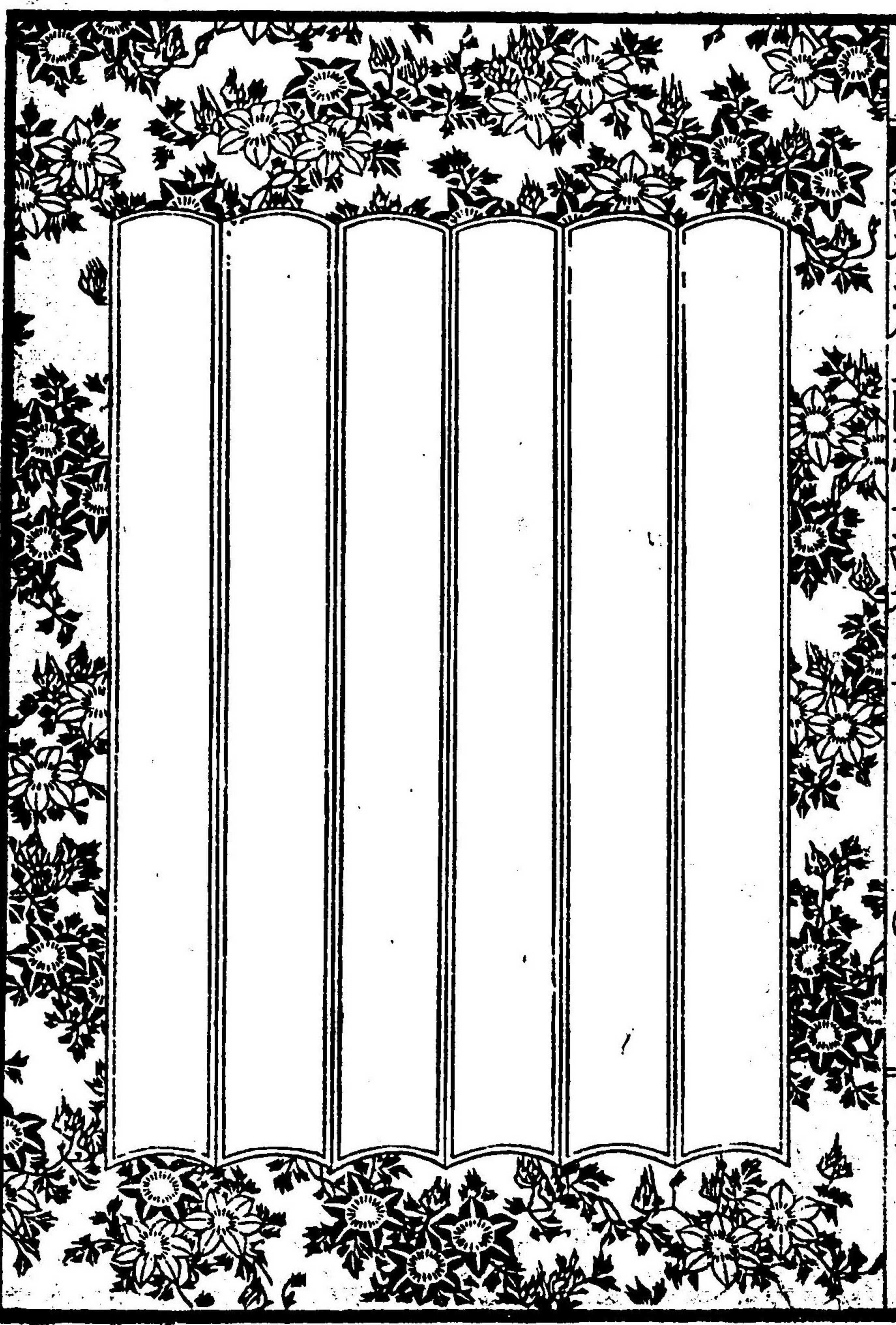
目錄明治十年交換

関羽威震華夏

糜德擒魏戦関羽

関羽滄殺魏七軍





繪本通俗三國志五編卷之七

関羽威震華夏

吳主孫權もろくの大將をよんで。荆及び取の計を議
 けよ。泰謀歩騭が曰く。さのみ決して無用なり。曹操漢の天下
 を奪んと。あり人ども怖るるものへ玄徳あり。いま使をゆりて。吳乃
 固より。荆及び攻よといひ。さき禰衡を吳は假その之孫權が
 曰く。さうりと人ども。荆及びを取んと。さき。正年久し。歩
 騭が曰く。いま曹操が弟の曹仁兵をよりて。襄陽樊川に陣を
 取。荆及び攻るる。舟筏を用るる。陸路より。容易寄る
 便あり。君よ。曹操が方へ使を遣して。曹仁よ。さやく攻むら
 せ。関羽がさきを防め。さき。君吳の兵を起して。ひたる。後。

傳士仁
麻芳
失火

麻芳

傳士仁

麻芳



志づらくその罪を免しぬ。関羽怒の気なやまを武士と
呼ぶ。二人が背を四十杖打せ先手の印をどぎ取て。麿芳と
どめて。江陵を守らせ。傅士仁をとめて。公安を守らせ。怒
怒めてやける。いふ。費詩の告り。あつらふべ。汝を
市に斬て。軍法と正さん。二山の首をあげおけ。お
軍に勝て。回りきたり。そのとら。罪を正しと。罵りけね。
二人羞怖して。退生も。関羽をあち。麿化と先手と。関平
と副将と。馬良伊籍と。その餘の大將を。荆
州と。四方を守らせ。中軍を備く。巴を打立
とき。あつら。帥の字各とる旗を。祭りて。志づらく陣中。眠
居る。忽ち大と牛のどく。全身真黒なる。猪一。走

り来りて。関羽が足と咬け。みぐ。くら。剣と殺て。まを斬
ける。よ。よ。の。吉。帛と裂が。どく。ま。と。雲。然。と。と。打。な。ど。く。
ま。ま。と。あ。ち。一。刻。の。夢。あ。り。け。ま。起。上。り。て。その。辺。と。と。る。
外。より。士。卒。一。人。走。り。き。た。り。只。今。午。の。時。あ。り。と。報。せ。関
羽。の。内。大。あ。や。し。と。その。子。関。平。と。呼。ぶ。や。け。る。ん。と。
夢。の。内。大。あ。の。黒。ま。猪。が。来。り。て。左。の。足。と。咬。と。と。と。り。覺
て。の。ち。も。陰。々。と。一。て。痛。あ。り。今。年。老。か。も。衰。て。か。つ。る。夢。と。と。
る。あ。ら。ん。関。平。が。曰。く。猪。は。龍。の。象。あり。龍。の。足。は。附。く。と。あ。
ち。天。を。升。る。ん。あ。り。父。あ。ら。ま。ど。目。生。度。と。い。へ。ん。と。ぞ。黒。い
あ。や。し。の。ま。と。と。て。謀。將。と。い。ふ。あ。ら。ま。の。よ。と。と。議。し。け。ま。と。と。
ま。事。と。い。ふ。あ。の。ま。と。と。変。は。事。と。い。ふ。あ。の。ま。と。と。い。ふ。あ。の。ま。と。と。

定らざりけむ。関羽昂然として。かけらる。士口事よせぬ。死
 凶事よせぬ。あれ。年。六旬。近ければ。たとい死を
 とも。ちんぞ。臆ん。朝。了ら。ぎ。勇。勅使の
 りて。関羽を前將軍に封じ。節鉞を假て。荆及九郡を
 領す。報。け。関羽。王命を受。滿座の
 諸將。一同。拜賀。さ。れ。猪の妻。應。ず。い
 いけ。関羽。は。あ。や。兵。を。襄陽の大路より
 せ。樊城。曹孫。曹仁。兵。を。居
 りける。関羽。推。外。周章に
 堅く。城を守らんと。ひ。大將。翟元。曰く。今魏王
 吳の國と好む。將軍。余。共。荆。攻。取。し。ち

んと。今敵をけり。來る。首と送る。んと。や。籠く
 出ざるの理。あら。曹仁。は。從。が。城を出て。戦。んと。の
 け。滿。曰く。関羽。勇。計。の。輕。ん。と。る
 敵。不。如。堅。城。守。て。推。入。復。矣。存。進
 と。出。て。曰く。御。邊。の。儒。者。の。道。と。さ。り。の。之。け。れ。敵。を。破
 る。武。士。の。道。と。さ。り。の。あ。や。水。來。土。掩。將。至
 兵。道。と。又。り。味。方。い。ま。逸。や。の。で。勞。と。侍。ち。の。怕。れ。る。に
 人。速。う。出。て。打。破。る。と。曹仁。げ。も。同。く。生。け。る。滿
 電。再。三。い。と。も。曹仁。卒。も。滿。電。と。て。城。と。ま
 め。襄。陽。を。こ。す。陣。を。取。関。羽。と。と。て。一。番。小。屋
 関。平。廖。化。の。計。と。と。教。へ。馬。と。と。て。か。ら。し。二。番。小。屋

化を以て馬を出しけり。魏の陣より翟元鎗を以て追ひ出二人二時をり戦ひ。廖化の負て走りけり。魏の勢勝る。以て追ひ。廖化二下里あり逃て。翟元鎗を以て追ひ。翟元鎗を以て攻くる。関平廖化二手を分ちて拒ぎた。曹仁を以て復存。関平を攻させ。翟元鎗を以て破して。魏の兵又二下里あり。追ひ。忽然として。後。喊の言を。あが。鼓を打て。天地を動させ。曹仁を以て退んと。され。後より。関平廖化の勢を以て追ひ。魏の勢を以て。乱れけり。曹仁敵の討て。落させぬと。一軍を以て。襄陽を向らんと。錦の旗を先と。関羽八十二斤の青竜刀を以て。赤兎馬を以て。曹仁を以て。魏を落し。一戦も及ぶ。小路より走りける。関羽を以て追ひ。道と。魏の勢の来ると。待る。復存が。一軍と。関平廖化を以て追ひ。走り来ると。関羽刀を以て。只一合。復存を斬て。落させ。翟元鎗を以て。怖お。馬を以て走りける。関平追及て。一刀を斬死し。魏の勢を以て。魏の勢大半。襄江の中を以て。死。関羽を以て。襄陽を取て。民と安ん。軍を以て。司馬王甫を以て。出て。曰く。今。將軍一息。襄陽を攻取。魏の將士。胆を以て。其も。愚案と。今。

會入軍三回

呉の大將呂蒙兵を陸口の屯して常々荆を伺ふのあり。將軍のち出でて呉の勢を後より。荆を攻むといふ。て拒ぎて入る。関羽が曰く。まゝもとのゆゑと慮る。よくもんとつけたり。汝幸ひまのゆゑと司れ。江の辺にあり。ひ十里内。高き阜をたてて烽火臺を構ふ。五十人の士卒を分てたてて守らせり。呉の困る。江を渡りて寄る。夜ち火をあげ。昼ち煙をあげ。まは傳て相報する。乍ら行時のあひま通ぞ。と自ら行て打破らん。王甫又曰く。糜竺傳士仁二人。江陵公安第一の攻口と守るといふ。力を尽せしむる。人みまをたねと扱んで。荆を

城を總守らしむる。禍あらん。関羽が曰く。武陵の人。潘濬とらむ。とて。荆を守らしむ。上かんとす。亦も慮る。とあらん。王甫が曰く。まの人の平生。たがひ忌の意深く。利を貪る。私めり。ある政を臨む。利を愛するものあらんや。今兵糧を司る。軍前の都督。趙累の忠誠。廉直なり。まの人をたて。荆を守らしむ。ちのいさむ。万が一も失あらん。関羽が曰く。まのいさむ。潘濬が忠義を志するもの。雷を。荆を守らしむ。あは。再。まの代んや。趙累へ。今兵糧を司る。まの又容易の。あらしむ。汝の烽火臺を構ふ。狼煙をあげ。まの備をなせ。内に入らば。王甫の内安く。す。いさむ。と危を

野中
夢
不
猪
咬
子

関羽



野中夢不猪咬子

九

のて。凜然たるとして。魏より一歩の膽を消後する。荒
みと走けり。呂常の軍を止むれども。さらば耳を鳴り入
れども。さしづぐも。あつらひける。関羽を討つとして。魏の乗
て。操たり。魏の勢も。一城も。一支も。支も。大半う
たきて。さしづぐ。樊城へ逃入りけり。関羽兵を拜て。取冊
息ども。魏に告ぐ。攻めしむる。

龐徳樓榭戰 関羽

曹仁の夜の戦も負く。城を危くする。けり。早進打り。
援の兵を求めけり。曹操大に。文武将の大將。あ
りて。評議し。列坐の中。一將を。汝行
樊城の田を解。曹仁と援よと云けり。諸人。さしづぐ。

泰山鉅平の人。于禁。字の文則。あり。甚に應。生て
りける。其を。大王の命を受。い。打向て敵を破ら
ん。福づく。一人先手の大將。曹操。諸人。い
て曰。な。先手の大將。一人。生。其福
大馬の勞を施す。関羽が首を取て。献。上。國恩を報
ト。下。百姓を救。い。ひ。諸人。さしづぐ。
る。その人身の丈八尺。面黒く。髪黄。悪鬼羅刹。異
らむ。毎に青き色の袍を著て。白き馬に乗ける。人。自
馬將軍と号す。乃ち南安桓道の人。龐徳。字の令明。
曹操喜んで曰く。関羽。荆。威。風。華。夏。を震動
さ。敵。大將。龐徳。さしづぐ。と云。

とよよき相手ありとて。于禁と征南將軍と一龐徳を。征南都先鋒と一して。やけらるる。深く。満寵が人よとぎなる。良策の事と志りて。まが樊城へ遣して。曹仁を援けしむ。されど。兵法の妙と。足らざる事と志る。汝二人をさし遣して。七手組の兵の汝がまて。志の事とて。みあられ北國そだちの荒武者。甲騎馬の具み至らざる。あましく。尋常の軍と惣領して。一手とて。大将をそる人あり。されど。汝十万人の内より。扱び出せるもの。常より。旗下を。あらしむる。此度の合戦の関羽を破らん。為され。この勢と。汝もさし。打起て。勝軍と報せよと云けし。于禁

謹んで命と受退出して。兵を揃け。七手組の大將董衡きたり。ひそに見く。やけらる。今將軍七手の精兵を預り。行て。樊城の後攻を志す。合戦の勝を期として。回る。志る。龐徳と先手の大將と志す。人のあたる。誤らざる。や。于禁と。まて。その人を尋ぬ。董衡が曰く。龐徳は元來馬超が手下の大將あり。が。やむと。は。魏は降する。い。馬超は。五虎將軍に任ぜられ。龐徳が兄。龐柔も。あま。玄徳の事。合まらざる。先手の大將と志す。油を。火を消んと。將軍早く。魏王を奏して。先手の大將と。あま。于禁や。同。夜中。曹操を見。右の由

と告げし曹操も実も同じく即時に龐徳を斬りて先
 手の印を剥取ければ龐徳も驚きひて曰く某も大王
 の命を受力と尽して関羽を誅し都の騒動を静へす
 るを以ていさるれば此のぞく先手の大将を剥りて曹操
 が曰く某も羊のあつて汝を用ひてんも疑はるる
 りし今日汝を用ひて先手の大将とせんといふ
 故主馬超の母ありて五虎の官を得兄龐柔も野にあ
 りて共の玄徳が大将なりとの人の疑人とも汝を疑ひるる
 此の二心を懐んとするも疑はるる他人の
 口をばかかて人の用ゆると克も龐徳も疑はるる
 也免て頓首し血を乞ひてやける某漢中

は降りし厚恩を受て身もあまら肝胸地もあまら報
 だるしあつて思入某じり故郷ありて兄龐柔
 と一所に居りが嫂をあつて不賢なりて某も無禮とあける
 由人某めると酒をさきて斬殺せりとの人の龐柔が悲
 骨髄入り再び對面せりと誓言とある義を断り故
 主馬超の勇りして討さるる士下り礼を乞ふことを知
 ずとの人の基を守るとあつて一身界りて玄徳
 は仕某の主人主上の大恩と被るる二心を懐く世の
 笑をひらんとや寝るるよく察し曹操の扶け起し
 曰く元元なり汝が忠義を志する前の言の疑人の人安ん
 んが為なり汝も人掛るる力と出で功とよ

新編通鑑三國志五終卷之七

〇十三

の誓言て汝を疑ト。龐徳拜謝して退出し家へ回つて死
人せ昇櫓を造らせ。次の日は孫は親交る友達を集く別を
一かの櫓を座上に置き且つ諸人とも怪とあり將軍今
兵を引て首途の渾夏と志のふみあふとして浩いままに物
で生一りんと問ふ龐徳杯をのびげてやけるふと魏王の仕
て思て受て身あまわりの誓言て命を捨んとおもふ。いま樊
城へ行て関羽と勝負を決せん。ももつ首とと
むりて回らむと。兗魄の浮と来るとおもひのふ人よ
まの櫓をかせて打起すのへ誓言てむあし。回らむと。首とと
結りければ満座と。涙とあふと。龐徳又女房李氏を呼
び。たけあふと。義と放て。君のたけは命と。ももつ首とと
い。

いま先手の大将と承り行て関羽と戦ひを決せんとも。もも
つ関羽を殺さんと。へ関羽うらむと。ももつを殺さんと。もも
つ若殺されぬと。ももつ入るべ汝よく。ももつ子の龐會を兼育し成
人も。まの敵と討て。父の仇をととがし。ももつの子。勿し。と。久
ども。常と替むる人相あり。うらむと。よくももつが仇と。ももつ報とと
まむと。ももつ。別とければ。妻子友人と。あふ大に哭く。送ける龐徳
とも。ももつ。真先と櫓をかせ。兵を引て。生けよ。手下の猛将五百
人あり。らや。しん。問て曰く。いま櫓をかせ。いふ。あふ。意と。
龐徳が曰く。汝ホ多事と。ももつ。は。従ひて。たがひ。あふ。のく。其の意
根をよく。志と。今。ももつ。大事と。あふ。で。汝ホ。属と。ももつ
も。ももつ。命と。背くと。あふ。今。樊城へ行て。関羽と勝負



と決せんとき。関羽を殺されぬ首は定て敵の手
 に渡らん。汝も死んで取て。その櫓のせり来て。蓋と
 せ。関羽を殺し。首のせり来て。自ら取ん。汝
 ホをやく。かゝる屍を取て。その櫓のせり来て。魏王に
 て功をめらさんと云け。五百人の猛将。な勇を
 曰く。げ。潔き大丈夫の所存。れ。將軍。先ある。其命
 せ。その仇を報を。として。兵を。打。曹操
 まで。傳へ。龐徳。か。上。の。曹操
 と。喜ぶ。賈。主上。曹操
 曹操。曰く。龐徳。壯。賈。主上
 あ。龐徳。血氣の。行。関羽と

が赤裸の虎を搏せんと。この世の
 又。強。闘。一。傷。の。入。國。安
 良。計。曹操。と。悟。急
 人。を。走。ら。龐徳。追。付。王。命。を。傳。へ。戒。を。関羽
 智。勇。兼。備。な。大。將。と。軽。く。戦。と
 ち。れ。取。ぎ。と。取。と。宜。く。固。く。守。は。れ
 ら。軽。く。仕。損。と。云。せ。け。龐徳。と
 ま。い。で。笑。ひ。で。起。け。と。怒。り。入。り。笑。ひ。と。問
 け。龐徳。曰く。今。樊。城。を。打。向。ひ。関羽。が。三。十。年。の。名
 と。り。ひ。足。り。主。上。の。人。を。思。慮。の。た。る。三。軍。を
 出。て。又。戒。を。下。す。血。氣。の。勇。と。宣。へ

ろまびつて提げて打て出兩方陣を取むうの魏の陣は
皇き旗をとさしめば南安の龐徳と白字にて書あらし
龐徳白き馬のりて鎧袍日映ト。五百人の猛將て交
へかの櫛をかかせて上げまへ関平大音あげて西羌の
主の背に逆賊と討けまへ龐徳左右問て曰く。まへ何
ぞのぞ。知人ありや。一人答て曰く。まへ関羽が養子と
平とすもその龐徳のぞ笑ひ大音あげてやけらるる魏
王の命を受きたらひて汝が父の首を取汝をあらす疥癩の
小兒も汝を殺さむ快く回りに早く父を出し来れ関平
大も怒り力たまへく蒐けれ龐徳も馬を出し戦ひ三千余
合ひて勝負を分たむ。相引ぬまのむまけまへ関羽の

由てまへ。龐化を大将として樊城を攻ませむ。関平
が陣に出けまへ。関平對面して合戦の様を語る。関羽
あらしむ。まへ馬のり出し。いふ。龐徳はまきる早来
りて首を渡せとよづり。鼓を打喊を作りけまへ龐徳
まへ出て大音あげ。天子の詔を奉げ魏王の命は
すりてまへまきたらひて汝が首を切落さむ。汝が死ん
とてまの櫛を用意せり。汝も命を惜まむとやく馬よ
り下りて降人とあれと討りけまへ。関羽大音あげて曰く。量
ぬは西羌の二匹夫なる。惜くれまへ。まの刀を汚して。汝が
とまへ。旧用を切とと討り。刀をまへく蒐けまへ龐徳も
馬をまへ。二人百余合たりて。精力いよく加りけり。兩

方ちやうの軍勢ぐんせいをさしてとて。又酒さけを酔よころがして。魏ぎのかん龐ぼん
 德とくが先まへちあらんとて。始はじに金かねを鳴なして。軍ぐんを収ため。關平くわんぺい
 も父ちちが羊老じやうらうたるを。あやむ。金かねをあらして。退ひきけし。共とも
 二兵ふたつを収ためけり。龐德ぼんとく本陣ほんじんを回まり。諸人しよじんもむろのやけり。
 人ひとも。關羽くわんぶが英雄えいゆうを怕おそる。今日けふも。初はつちで。げも。と思おも
 于禁しゆきんが曰いく。於軍おのぐんを。關羽くわんぶと百ひやく余よ合戦がっせんして。さら。勝かち
 負まけを分わたむ。只ただよく。軍ぐんを志しのぞけて。その鋒はなを。さけ。人ひと
 龐德ぼんとくが曰いく。魏王ぎぎを。將軍しやうぐんと。あらんと。討手たうての大將たいしやうと
 あり。あやむ。人ひとも。隨弱じゆじやくなる。言ことを。生なし。のぞ。の。は。さ。ら。
 よく。生死せいじを。決けつし。折言せつごんして。退ひく。と。あ。う。と。て。髮鬚はつすを。倒た
 して。堅かま。け。し。于禁しゆきんあら。と。い。て。生なま。り。關羽くわんぶ本陣ほんじん

回かり。關平くわんぺいも。い。ひ。く。や。け。る。龐德ぼんとくが。武藝ぶぎよく。熟うして。ま。ま。
 二ふたが。對手たいても。あ。り。し。と。又尋常じんじやうの事ことか。ま。り。關平くわんぺいが
 曰いく。俗ぞくの。謗ぼうも。初はつち。生なし。と。る。憤ふんを。却かして。虎こを。拍たき。と。い
 へり。父ちちたる。奴やつと。斬ころす。と。い。ども。本ほんは。ま。美み國こくの。小卒せうそつか
 れ。な。る。程ほどの。誓ちかい。あら。ん。か。一失いつしつち。あ。ると。凡おほく。漢中かんちゆう王わうの。命めいも
 背せき。荆刃けいじんの。重任じゆうじんと。や。り。て。鳩毛こぶげすり。も。輕かろん。と。る。も。似にたり。
 關羽くわんぶ志しを。い。や。け。る。も。龐德ぼんとくを。殺ころす。と。い。ふ。あ。や。む。い。ひ。
 根ねを。雪ゆきん。も。意いを。と。と。一決いつけつせり。再またび。棘きせきむ。か。と。あ。れ。と
 ぐ。次つぎの。日馬ひまと。と。い。ち。て。出でけ。し。と。龐德ぼんとくも。刀はなを。提ひげ。て。踊おどり
 出でり。關羽くわんぶ大音たいおんを。あ。げ。今日けふ勝負かちまけを。決けつせ。と。い。ふ。
 あ。て。軍ぐんを。収ため。と。て。二ふた人にん鋒はなを。と。と。人ひと戦いくさひ。五ご十じゆ余よ合が

一、麗徳馬を引回し、刀を引て逸走。関羽まう。追、
 汝刀を引の計で用ゆとも、おんぞ、怖とんやと、よづり
 けむ。麗徳も、とらり。非、刀を引の計とては、弓矢を
 せげて、走るも、関平父の失ちあらん。と、怖、跡、付
 て、せ、来り。麗徳が、弓を引、を、付、で、賊、將、矢、を、あ、い、ぞ
 と、よ、づ、り、け、む。関羽、頭、を、あ、げ、て、え、ん、と、さ、る、と、え、ん、弦、音、高
 く、ま、さ、る、で、一、の、矢、左、の、臂、中、り、け、む。さ、る、と、え、ん、馬、よ、り、落
 んと、さ、る、と、え、ん、関平、ま、さ、る、と、え、ん、付、さ、る、と、え、ん、本陣、一、回、ん、と、ま、さ
 る。麗徳、力、を、ま、へ、し、て、討、て、蒐、る、と、え、ん、魏、の、陣、を、響、て、鳴
 して、軍、を、収、め、け、む。麗徳、お、ど、ろ、ひ、て、引、返、し、な、る、と、え、ん、と、
 問、ふ、于、禁、を、け、む。都、と、出、る、と、え、ん、魏、王、の、戒、め、り、関羽、の、智

勇、と、り、の、備、り、て、尋、常、の、敵、を、あ、ら、む、と、宣、へ、り、今、一、箭、の、中、と
 ぞ、も、若、い、計、と、あ、ら、ん、と、怖、る、ま、の、人、の、軍、を、収、め、たり、と
 い、ひ、け、む。麗徳、い、の、ん、と、ま、さ、る、と、え、ん、軍、を、収、め、む、と、我
 う、あ、ら、む、と、関羽、を、斬、ん、と、の、と、ら、ぬ、と、後、悔、し、て、休、む、と、
 れ、元、来、麗徳、が、関羽、を、射、落、し、た、か、と、て、于、禁、の、ま、ご、が
 功、を、奪、へ、し、と、ん、と、と、怖、と、て、ま、さ、る、と、え、ん、軍、を、収、め、け、む。関羽、に
 本陣、を、回、り、て、矢、を、救、ま、し、治、さ、る、と、幸、ひ、ぬ、深、手、あ、ら、む、と、
 れ、ば、薬、を、傳、へ、と、さ、れ、を、蓋、ひ、痛、く、麗徳、を、恨、ん、で、ま、さ、る、と、
 ら、む、と、の、二、箭、の、仇、を、と、ら、ぬ、と、云、け、む。諸、將、を、曰、く、輕、く
 一、出、の、一、と、あ、ら、む、と、倉、の、痊、を、待、の、人、次、の、日、麗徳、兵、を、引、
 て、ま、い、よ、せ、け、む。関羽、出、て、戦、へ、ん、と、い、ん、と、も、諸、將、謙、て、又

て出さず。麗徳兵を下知く。さぬぐ。司り辱ちけし。関平
 深く手下のものどもと戒めて父の告ることあらし。麗徳毎日
 戦ひを催せども敵十日あらず。出ざりけし。于禁とよんで。
 相議し。今関羽を瘡と被り。固く守りて出ること。不如大
 軍と一手あつせ。勢かひのゆいで。陣中へ攻入り。樊城の圍を
 救ふといひ。まづ于禁の内の麗徳一人が功あらん
 ことと怕し。いと人魏王の戒をのべてあて。兵を動かさず。麗
 徳志たりのまき。むまど。于禁さらし。徒も後。七手の兵
 と樊城の北十里へ移し。山へたて陣を取。于禁のうら。大
 路とまへて。麗徳と山の後。陣をとら。兵を進て功とす
 と能のぞりし。

関羽津殺魏七軍

あのと。関平へ父の矢瘡を。で。痊たる。と。の。内。大。の
 喜び。討て。出んと。義と。る。ち。魏の。勢。と。あ。樊城の。北。十里。の
 陣。を。移。し。たり。と。ま。い。く。その。計。あ。らん。と。と。怕。し。の。を。だ。関羽
 又。報。じ。け。し。む。べ。関羽。と。う。ら。馬。の。り。十。騎。あ。り。を。予。て。山
 又。登。り。遙。く。敵。陣。と。ん。と。せ。ば。樊城の。内。立。双。と。る。旗。の。色
 さ。ら。し。と。敷。正。を。で。し。て。軍。士。と。あ。疲。し。又。城の。北。十里。を。かり。み
 く。山谷の。中。魏の。七。軍。陣。と。取。襄。江。白。河の。流。白。浪。た。を
 涵。し。て。水の。勢。か。ひ。を。い。へ。と。急。あ。り。け。し。む。地。理。を。ま。く。く。ん
 定。ち。案。内。者。と。呼。び。て。曰。く。樊城の。北。十里。を。かり。み。し。の。い。ま。魏
 の。勢。の。陣。と。取。と。る。谷。へ。い。う。あ。る。と。ど。答。て。曰。く。曹。口。川。と



と去と稍遠一。この間の大雨降続く軍士たどぐく疲れ
苦む近比刺及の兵のさ高きある陣と移して。漂水の口
のちかく船筏を造ると兼のへる。も。兼江の水溢まて。さの
處みみあまり来らべ味方の勢いかくて逃るまき于禁怒と
しけるへ増まのま。無用の舌と掉く。人の心とまどろ
も。再び云べうまらむ首と切ん。成何羞怕れて退生し。麗
徳みあひて右のあひまきと。結りけまへ麗徳たみおどろか
ぬ。御辺の意見たれつ。當り。于禁り。用ひごんを
まき。のうら高きあまうはるべし。成何が曰く。明日とまや
る陣と移して。計とあし。この夜も雨風とのまき。が
りけまへ麗徳帳上み坐して。居らう。い。俄み四方ひりま

立て鼓の音地を動しけら。まの如何よとあどろき急の馬
よのひてえると。四方八面洪水みうる漲り来り。魏の勢
あまき叫んで。隨波逐浪。おちと死するもの。救やまらむ
片時のあひご。平地水深きと。一夫あすりけまへ麗徳
総將と引て。小山よ上る。大波天と極して。える。膽冷
しめり。く。氣を失ふと。り。のう。ま。夜も若く
とあけて。関羽兵と率し。兵船よとのり。旗とま。お
鼓と鳴。喊と造て。攻蒐ま。于禁ま。五六十人を
ま。た。入。四。方。逃。る。ま。き。路。お。ま。と。て。降。人。よ。あ。ら。ん。と。ま。ま。
り。け。ま。へ。関。羽。ま。あ。ら。む。甲。盔。と。脱。せ。繩。と。り。け。て。船。よ。入。れ
た。ぐ。ら。も。麗。徳。と。生。取。よ。せん。と。後。麗。徳。の。董。遂。成。何。二。人

三十一回 関羽の勇名

と五百の猛將と志たぐ身より甲盔もあぐ。さあ堤の上へ
立ちとさきも拍も色あう。へ関羽兵船とつら
て四方で囲み雨の降がどく。矢とさあちけま。魏乃
勢紛いと。大半の射さる。董衡董起の急
あるとえぐ。龐徳よむ。軍卒とどぐく射
あうされて外へ去る道あり。まろ降人とあひて命を
なまらう。龐徳大に怒りて曰く。まろ魏王の厚恩を受
めよ他人よむ。勝とあちやとて。みんぐら董衡董
起と劫殺。大音あげて。再び降らんとす。ゆる
の。山の。あう。弓と取て。関羽の船を
む。射たのけま。魏の兵射落さる。の

多かりけり。午の刻。の。疲も
ざり。関羽兵と下知。き。四方より攻ませ
大石と飛。矢とあひて。龐徳も
味方と下知。短兵急な。成何と顧く
中ける。勇將不法死以苟免。壯士不毀
策而求生。今日。死さる日あり。汝能
カと振と戦。成何と。真先
る。関羽一矢。水中に射て落さる。魏の軍
まどぐく。降人ありけ。一人勇と振。時
うけるまで戦ひ。魏の兵殺百人。小舟のり来りけ
る。刀と打振。飛のり。一人も残さ。斬殺。の舟



小棹さし先降人出する手下の勢をみねそのせ樊城
をさしつて逃入んとする。向より一人の大お後よのひで詭来
り。龐徳が小舟を撞く。さうさう打区を魏の軍。大とく
水中に落けよべかの大將水の底と泳ぐ。龐徳と擒み
関羽が主人を引出さ。諸人さうさうとて。関羽が手下
の大カ。周倉とて。水練の達者。魏の十軍。さうさう水中
に死す。降人となりて命と助るもの。二万人。さうさうけ
り。関羽兵と収め。阜の上。陣と取り。士卒千禁を
縛り来る。于禁地。持伏し。命と助け。人
いひけよ。関羽が曰く。汝はさうさうと推ぎたる。于禁
曰く。君の命。あられ。巳と。得も。將軍幸ひ。憐れ。と。垂の。

ちうののの因心と報と。関羽笑ひて曰く。汝はさう
さう。狗を殺も。か。さう。さう。力と汚。さう。さう。士卒
命。ト。荆。カ。の。か。や。ひ。て。獄。中。よ。さ。ら。へ。さ。し。む。又。龐。徳。を
引。出。さ。し。む。る。龐。徳。目。と。怒。ら。し。牙。と。咬。ぐ。ひ。さ。ぬ。け。さ
り。け。よ。へ。関。羽。が。曰。く。汝。が。兄。龐。柔。も。故。主。馬。超。と。と。ゆ。り
又。仕。よ。汝。あ。ん。ど。連。る。降。ら。せ。し。と。却。ぐ。さ。ま。ま。生。取。れ
た。龐。徳。さ。け。ん。で。や。け。ら。へ。が。魏。王。百。万。の。精。兵。あり。威。大。ト
又。振。よ。汝。玄。徳。久。し。う。ら。ら。む。と。擒。と。あ。ら。し。む。さ。あ。ん。ど。汝
又。む。ら。ひ。て。膝。と。屈。ん。関。羽。大。な。怒。り。お。し。出。し。と。切。し。む。る。又
龐。徳。頭。と。延。し。討。ま。け。り。関。羽。その。忠。義。と。あ。ら。し。む。で。屍
と。あ。ら。し。む。墓。り。又。兵。船。と。さ。ら。へ。樊。城。を。攻。か。ら。樊。城。を。

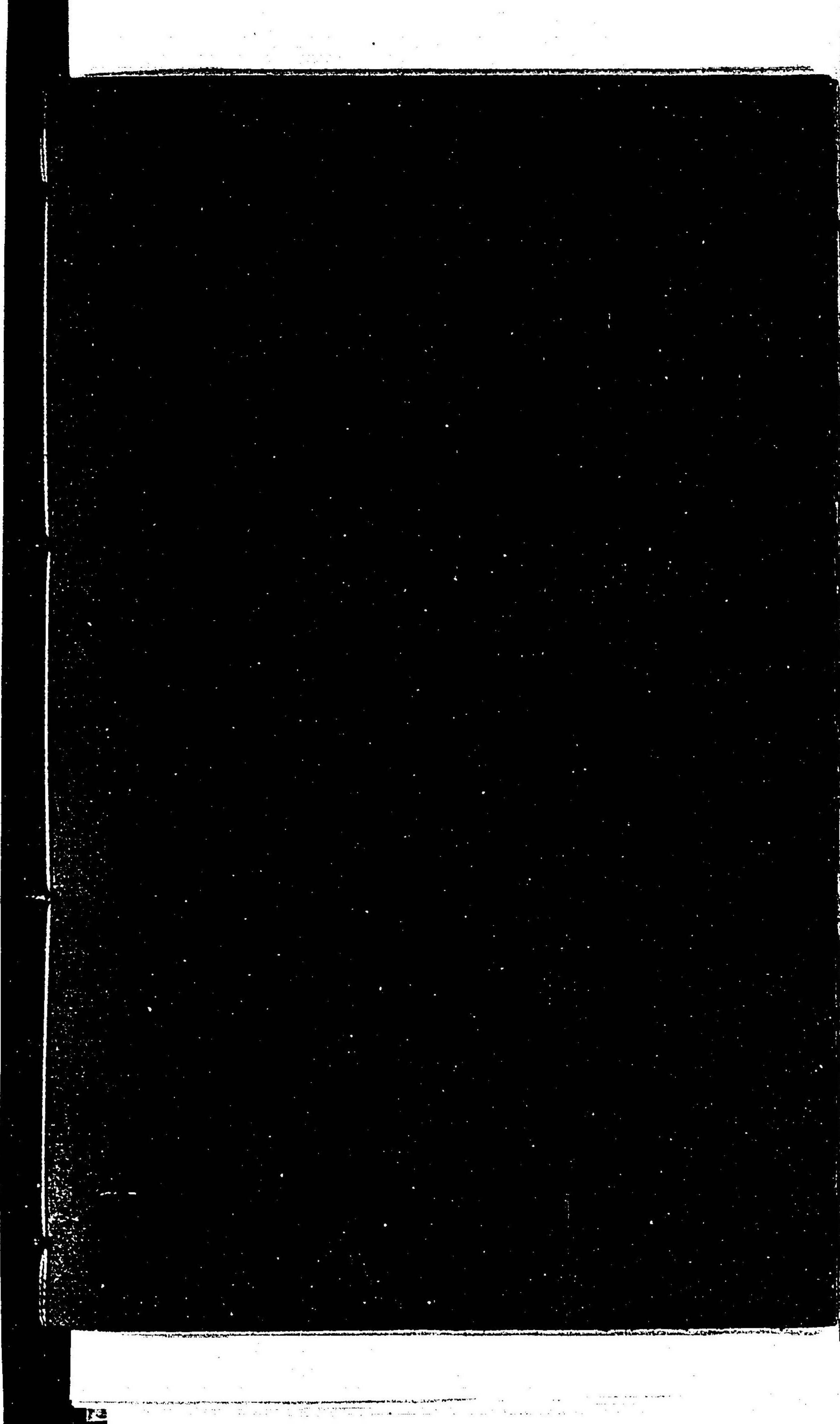
洪水甚と溢まて白波天を漫く四方の壁工づく落ければ
 城中上と下へと騒動し曹仁と初とと騰と失はざるありし
 其のまよふより。諸人相後し。今日の危き。既ふ救べきやうし。関
 羽が奇来たるまよひをひらるる舟を取夜中を走るとして皆に
 用意とあしければ満電練く口く。そのの決くと然とて曹
 仁が曰く城已に破まんとも。安ぞよく守らまき。満電が白く。その
 山水俄に生るるゆゆのちのれは十日ととたんとて退くとてあんとて
 洪水と怕れり。今関羽いまだ城を攻むるといども。已に兵を
 陝下まき。向たると許昌より南の百姓大に乱ると其騒
 動まゝ。あうれども関羽が軽くと進むる。樊城の敵ありて
 その後と罷るととと怕るゆ人あり。今その城ととて。尽く走り

関羽あやまると兵とととて黄河より南に尽く攻取るべし
 ぶく。將軍んとて尽くと。その城と守り。國家の為にかと生れ
 えと。練ゆると。曹仁げともと喜んで曰く。御辺の教ま
 らざらん。はまらるるも大にゆとあやまると。自白も馬と
 打乗と。諸將とあゆむ。國家の厚恩と受たの城の
 大將とある。の城とととて。走らんととらみそのあらはるる
 て。その馬のどくあらんととらみと。その馬と水中に切諸人とあ
 同音と。某ホ縁とつと。命とととて。守らんとといひけと。曹
 仁大に喜び。城の上を弩。枚百張と設け。昼夜と忌と相
 守り。土と荷ひ。石ととと。築地と構と。十日の内。水とと
 いは。退まける。関羽へ。魏の七軍と平げ。于禁と生取。龐徳

て誅してすなり。勢ひ四方に震る。天トをどるまを恐れむといふ
やのあり。と死に次男関真荆及びすり来りけむ。関羽を命
ち。諸將の手柄を書記し。関真を使として。成都を遣は合
戦の様を漢中王に報ぜしむ

繪本通俗三國志五端卷之七終

122
74
28



74
28

繪本通俗三國志 五編 七

123
74
38

東 京 圖 書 館

和 書 門

小 說 類

三 六 函

七 架

七 八 號

七 五 冊

繪 本

繪 本 全 國 志

編 七